

高齢犬の健康管理

近年、ペットの寿命が長くなり、犬の世界にも高齢化が進んでいます。小型犬になると20歳近くまで生きることもあります。では、いつからが高齢になるかというと、大型犬と小型犬では若干異なりますが、7歳を迎えた時期から高齢犬と考えたほうがいいでしょう。人間に換算すると約50歳前後になり、見た目や行動など徐々に変化が見られてきます。今回は高齢犬で注意が必要なお話したいと思います。

・ 高齢犬に多い病気

心臓病

高齢犬で一番多いと思われる病気です。特にマルチーズやシーザーなどの小型犬に僧帽弁閉鎖不全症という病気がよくみられます。これは心臓にある左心房と左心室という2つの部屋を仕切る僧帽弁がうまく閉鎖できなくなり、血液の逆流がおこる病気です。症状としては、初期の状態ではほとんど症状が認められません。進行してくると、心臓が徐々に大きくなり血液を全身に送り出せなくなります。このぐらいになると、運動するとすぐ疲れてしまったり、咳がではじめたり、ひどいと呼吸困難や失神などの症状が出る事もあります。治療法として薬や食事療法によって、病気の進行を遅らせることができます。早期発見が重要になってきますので、高齢犬は健康診断をしっかりと受けていきましょう。

腫瘍（ガン）

犬も人と同様に高齢になると腫瘍が発生する確率が高くなってきます。腫瘍はいたるところに発生いたします。胸腔内や腹腔内は発見するのが難しく、大きくなるとわからないこともあります。飼い主さんが発見しやすいところとして、身体の外表面にできる腫瘍なら、身体を触っていれば発見できると思います。日頃からスキンシップの一環として身体をよく触っていると良いでしょう。

歯周病

歯周病は歯の表面についた歯垢の中で繁殖した細菌により、歯の周りの組織が破壊される病気です。犬や猫は人間のように歯磨きをしないので、高齢になればなるほど歯石がたまり、歯周病がひどくなります。病気が進行すると、歯茎が腫んで、口臭がひどくなり、歯が黄色や茶色に変色することもあります。ときには、歯周病による細菌が血液の中に入り込んでしまい、全身感染症を引き起こし、肝臓や腎臓、心臓にまで影響を及ぼすこともあります。ときどき、口の中を観察し



たり、よだれや口臭がひどくなったりしていないか確認をしておきましょう。予防として、歯磨きが一番だと思います。小さなときから習慣付けておくといいますが、できない方は歯みがきガムなど使用することを考えてみてはどうでしょうか。

関節疾患

犬も年をとると関節の組織に変化が起こり、関節のクッション性や柔軟性などが徐々に失われてしまいます。大型犬は股関節や肘関節に多く、小型犬では膝関節に多く認められます。症状として、歩くことを嫌がったり、いつもと違う歩き方をしたりする場合には注意が必要です。また、体重が大きく関わっており、肥満気味の犬は関節に大きな負担がかかってきますので、体重の管理も重要です。

子宮蓄膿症

子宮摘出手術をしていない雌犬にみられる病気です。発情周期に伴って分泌される性ホルモンにより子宮内の免疫力が低下することで、細菌感染がおこり、子宮に膿がたまってしまいます。老犬になると、免疫力も低下してきますのでこの病気になりやすく、重度になると死亡する危険もあります。予防として、子宮に膿がたまるので、子宮摘出手術をしておけば問題ないでしょう。

痴呆

犬も猫も寿命が延び高齢化したことで、人間と同じように痴呆、いわゆるボケの症状が見られるようになってきました。学習したことを忘れ、運動能力が低下し、飼い主とコミュニケーションがとれなくなり、飼育困難な状態になると痴呆と診断します。年齢としては13歳以上が多く、柴犬をはじめとした日本犬によく認められます。症状は、夜鳴き、円を描くように歩く旋回運動、狭い場所に自分で後退できずにいる事、飼い主や教えた事を忘れてしまう事などがあります。

・高齢犬の食事

高齢犬になると筋肉量が低下し、代謝によるエネルギーや運動量も低下するため、肥満になりやすくなります。また、内臓による消化吸収機能や免疫機能も低下してきますので、食事を高齢犬用に変更する必要があります。1日の食事の回数も2~3回に分けてあげたほうがいいでしょう。では、主な栄養素を見てみましょう。



<カロリー>

若い時期に比べて基礎代謝が低下し、エネルギー必要量も 20%低下すると言われています。カロリー濃度の低い食事にしてあげましょう。

<たんぱく質>

老化によりたんぱく質の分解合成がうまくできなくなってきました。たんぱく質の量を減らすよりも、消化しやすく高齢犬に必要なアミノ酸がしっかり含まれた良質のたんぱく質を与えてあげましょう。

<脂肪>

エネルギー必要量が低下しているため脂肪分は控えめにしますが、必須脂肪酸はしっかり摂取させてあげましょう。

<ビタミン>

ビタミン E には老化の元となる活性酸素の働き抑制する効果があります。たんぱく質や脂肪分の代謝を助けるビタミン B 群も欠かせません。

<ミネラル>

ナトリウムやリン、カルシウム、マグネシウムはバランスよくとることが大切です。ナトリウムとリンはとり過ぎると心臓や腎臓に負担をかけるので控えめにしてあげましょう。

・ 定期健康診断の勧め

高齢犬に多い病気は、早期発見し、早期治療が重要なポイントになります。7 歳を過ぎたころから、飼い主さんのケアも大切ですが、年に 1~2 回の動物病院での健康診断をお勧めしか調べる事ができ、食事についてもくわしくアドバイスできることもあります。愛犬との健やかな生活をサポートしていきます。

